



# 町民文芸

## 只見短歌会

十一月詠草

大塚栄一

指導

小倉キミ子

赤き実を残せる枝に冬の芽も並びて見ゆる春は遠きに

関谷登美子

小学校の運動会に参加して生徒作りしメダル受けたり

新国由紀子

古い母に行きたき所を尋ねればテレビで世界が見れると笑ふ

古川 英子

予防接種で病院混み合ひ薬のみ貰ふわが名も未だ呼ばれず

渡部ゆき子

一週間も猪苗代湖に白鳥のはや来しといふ雪も早きか

馬場 八智

水害に壊れし線路に草茂り寒ざむとして冬が又来る

目黒 富子

土浅く埋めし球根明日咲くと得意気にして孫は又言ふ

渡部ヨリ子

冬囲ひの板の隙間より一輪の真紅のばらが日に映えてをり

新国 洋子

病むわれは子らが改造してくれし部屋の広きに未だ眠れず

(出詠順)

## 只見俳句会

十二月例会

目黒十一

指導

吉 児

烈風や羚羊岩にたじろがず

木枯や揺る篋の葉擦れ音

信

津軽路にストープ列車の宴かな

おはようとい行きかう人の息白し

リウコ

亡き人の句集よみゆく冬の夜

冬至の夜羊八匹目に消ゆる

都

コンテナに野菜山ほど冬仕度

みおろして港に続くみかん畑

洋 子

午後の陽を冬蒲公英が引き寄せし

朝水を飲むのどごしの冷たさや

浩 子

四方より浮洲に帰る鴨の列

午後の陽が枯すすき野を輝かす

味代子

忘れ花荅とぼしく咲きいでぬ

片づけて又すぐ出して師走かな

恒 夫

廃れゆく村のしきたり古曆

四五日も過ぎて刈り上げ九日餅

礼

折り紙の猿の表情冬灯

冬ざれの畦往き来する同じ猫

順 子

真上より伝書鳩来る冬の虹

勝手口開き豆選る小春かな

修 一

ずっしりと白菜重き立ち話

大ケヤキ林の字のごと落葉

一 穂

嫁話来て十二月入籍す

初雪や取り残し菜の埋れいて

敦 子

雪散らす落松林峠越え

夕しぐれ畑の作物軒下に